

令和2年12月24日

行政改革担当大臣 河野 太郎 様
環境大臣 小泉 進次郎 様

福岡大学教授
学校法人福岡大学評議員

山崎 好裕

「奄美大島における生態系保全のためのノネコ管理計画」(2018～2027年度)
の予算凍結・廃止を求める意見書

歳末の候、コロナ感染症の終息を見ないまま、旧年が暮れようとしています。両大臣におかれましては、次年度予算編成他の業務にご多忙な日々をお過ごしのこととお察し申し上げます。

さて、本日お願いの儀ですが、当初計画で9年間に約5億円の予算が投じられようとしている奄美大島「ノネコ」管理計画の予算を凍結してください。

私は2019年以降、院内集会等の方法で同計画の見直しを訴えてきました。理由は、「ノネコ」の生息数の推計に問題があり、過大に評価されている可能性が高いためです。詳しくは、資料として同封した拙稿「統計的推測の誤用としての奄美大島『ノネコ』生息数推定」をご一読ください。

環境省の発表でも周知のとおり、アマミノクロウサギなど希少種の保護のために、過去にマングースの駆除が行われたことで、希少種生息数が相当程度回復しているという推計が出ています。このことを考慮に入れると、「ノネコ」生息数の過大評価は、地元捕獲業者等を潤していた予算を維持するための方便ではないかという疑いを拭えないものです。

「ノネコ」生息数が過大評価されている傍証として、計画通りの「ノネコ」捕獲が全くできていない事実もあります。たとえば、令和2年度の捕獲数は12月初めの時点でわずかに16頭にすぎません。そんななか、『奄美新聞』12月23日朝刊でも報じられているように、閣議決定された予算案には「希少種保全のためのノネコ対策事業費」として6,000万円もの大きな金額が計上されています。この予算は、奄美大島だけでなく徳之島をも含めて、「ノネコの生息状況調査・個体数推定、捕獲などを実施する」ことを目的に謳っています。目的前段の個体数推定をやり直すという内容は、私の主張が容れられたものと評価できますが、捕獲を一斉に実施するのは危険です。「ノネコ」管理計画開始後、全国の皆さんが、捕獲された「ノネコ」の馴致と譲渡に尽力されてきました。しかし、捕獲地域が島嶼部であることもあり、多くの困難を抱えていらっしゃいます。この状況で一斉捕獲を実施したとすると、期限に間に合わずに殺処分される「ノネコ」が出るのではと心配されます。

世界自然遺産登録に向けて国際自然保護連合 IUCN の英文評価報告書を私は読みましたが、そこでは「ノネコ」の問題ではなく、地元の合意が十分ではないことが最大の障害とされていました。世界遺産登録を全国から祝福されるものにするためにも、予算の凍結をした上で、もう一度地元を中心とした話し合いをすることが望まれているのだと考えます。